

第 2 回 IT リテラシーWG 議事要旨

日時	2018 年 11 月 12 日(月) 15:00~17:00
場所	(独)情報処理推進機構 16 階 第 3 会議室
参加者	佐藤 委員(WG 主査) 尾花 委員 高橋(範) 委員 高橋(秀) 委員 田口 委員 林 委員 (オブザーバ) 経済産業省 情報技術利用促進課 地域情報化人材育成推進室 情報処理推進機構 国家資格・試験部 (事務局) 情報処理推進機構 人材プラットフォーム部
資料	資料 1-1 : 前回のご指摘と対応方針 資料 1-2 : ITLS 項目リスト 参考資料 : 第 1 回 IT リテラシーWG 議事録

1 前回のご指摘と対応方針 (説明)

(1) 前回の振り返り、主なご指摘、対応方針

- 前回提示した ITLS 案に対し、「ITLS 原案は内容が細かすぎる。」「誰がどの様に使うことを想定するのか」、「1 級 (組織・企業) と 2 級 (個人) で対象が異なるという定義は分かりにくい」、「現場で発生しているリテラシー不足の問題を訴求する必要がある」といったご指摘をいただいた。対応方針として、内容を簡易に示すフレームワークやモデルカリキュラムの作成、1 級と 2 級を同一軸上の習得度合いで定義することなどを検討したい。デジタルビジネスなど事例的な文脈から訴求していくことが効果的なテーマは、ITLS 作成とは別に検討する予定。[事務局]

(2)ITLS 骨子 (案)

- ITLS ドキュメントは「概要」、「項目リスト」に加え「モデルカリキュラム」の3つで構成することを検討している。概要には ITLS における IT リテラシーの定義および 1 級と 2 級の定義、フレームワークを含む。フレームワークは項目リストを要約したもの。フレームワークの各項目と 1 級 2 級で習得すべき内容の関係をビジュアル的に表したものがフレームワーク(イメージ)で、カリキュラムに展開する場合のメリハリや評価ラインを示している。[事務局]

2 ITLS 骨子 (案) について (討議)

－フレームワーク (イメージ) の解釈を中心に討議が行われた－

- 評価ラインの意味について
 - 評価ラインは 1 級の最低ラインと言われるとしくりくる。
 - 誤解を与えないようにすべき。
 - 評価ラインから上をどう見るかが分かればすっきりする。知識の部分は評価ラインまで。現場感が伴うべきものがその上なら分かる。
 - ◇ 評価ラインは 1 級の基準で、1 級のベースラインを満たしリーダーシップを発揮できると評価することを想定している。[事務局]
- 縦軸 (4 つの段階) の意味について
 - 4 段階に見えるが知識、経験、判断力等の深さと考えればよいか? 例えば 1,2 級それぞれで、下は知識、上は活用力などと帯の意味を決めると分かり易い。
 - 2 級 (黄塗りつぶし) と 1 級 (赤塗りつぶし) が混じった部分など含め、縦軸の意味が分かりにくい。
 - ◇ カリキュラム展開する場合の内容のメリハリと考えている。現段階では単なるイメージで、細目ベースの見直しは必須。習得度合いだが、知識だけかスキルなのかここで書き分けは難しい。[事務局]
- 2 級 (黄の範囲) と 1 級 (赤の範囲) の関係、境界の定義について
 - 黄色は理解度、赤は活用度としてマッピングできれば分かり易いが、1 級にも黄色の知識は必要ということはどう表すのか。知識、技能、活用などと言っても、知識が無ければ活用はできない。面積 (範囲と深さ) で級を分けるのが分かり易い。1 級は下のレベルまで含み、2 級は白抜きが多いという表現。リーダーシップは捉え方の問題で、必ずしも職位等が上の方とは限らない。新入社員でも発揮する。「発揮できる」は「素地がある」と捉えている。
 - 実践と言うとスキル診断のような自己評価が必要。知識ベースなら、実践を前面に出さないほうが良い。1 級と 2 級は点数で分けるべきではないか。1 級のリーダーシップの発揮は言い過ぎの感がある。「横断的に活用」という言葉は残し、網羅的に把握して活用できるとこ

るまでにしてはどうか。

- 点数で切っても良いが、設問により 1 級と 2 級で求められる正答率を変える方法もある。それが図の凸凹ではないか。
- 理解できるのが 2 級の上の線、横断的に活用できれば 1 級の評価ライン、リーダーシップを発揮できるのが 1 級の上の線というようにすると分かりやすい。
- もし iパス試験を意識するなら、それと矛盾なく説明できたほうが良いと思う。黄色と赤の範囲の意味合いとジャンルごとの割合を精査する必要がある。1, 2 級は同じ評価軸上にあるなら、重複部分があるのは違和感がある。
 - ◇ 全体を 2 級、1 級（基礎と応用）に分けたうえで、どう色を塗っていくかのルールを決めていく。また同一ライン上で点数により分けるという方向も検討してみる。2 級は 1 級カリキュラムの受講前提的な位置づけ。リーダーシップの発揮は定義文以外のところで使っても良い。[事務局]

● その他表現について

- 項目はあまり細分化しないほうが良い。3 分野の点数と、総合評価点を表すだけなら項目が細かすぎる。
 - ◇ 細目の一覧ではなく、フレームワーク（イメージ）程度のボリュームのほうがわかりやすい。あまり細かくすると分かりにくいとは考えている。[事務局]
- 第 1 回より 1 級、2 級がイメージしやすい。必要なら iパスのシラバスともリンクは可能と思う。
 - ◇ いただいたご意見を整理し、カリキュラム作りと合わせながら検討する。[事務局]

以上